



資母まちづくり計画

～伝統文化を育み、花と緑あふれる、やさしい郷、しぼをめざして～



資母まちづくり協議会

目 次

地域の概要

資母まちづくり計画策定の趣旨	1
地域の概要	1
地域の現状と課題	2

組織の概要

地域活動のスタイル	3
組織及び構成	3
しばの夢アクションプラン	4

会の活動

活動の理念	5
事業計画	6
将来の目標とテーマ	7

資母まちづくり計画策定の趣旨

平成 24 年 12 月 15 日、豊岡市資母小学校校区に「地域づくりの会・しぼ」が設立されました。その後、資母振興対策協議会を発展的に解消し平成 27 年 8 月 30 日資母まちづくり協議会が設立され、地域づくりの会・しぼの活動が受け継がれ、さまざまな団体や住民の活動を支援し共に行動するコミュニティを目指して、少しずつ歩みを始めています。

資母地区では少子高齢化が進行しており、これにともない地域のつながりや地域活力の低下、将来への不安などが深刻な問題となっています。地域の全ての人々が互いに協力し、安心していきいきと暮らせる「資母」を目指す指針として、この「資母まちづくり計画」を策定します。

地域の概要

資母地域は豊岡市の南東部に位置する山あいの地域です。

周囲 3 方が京都府に隣接しており
主な道路は与謝郡与謝野町、京丹後市
福知山市に通じています。

この地域は如布、赤野、虫生、口藤
中藤、奥藤、奥赤、赤花、坂津、畑山
日向、東里、木村、太田、西野々
高龍寺、坂野の 17 行政区から成っており
675 世帯 1,710 人（平成 29 年 1 月末現在）
が暮らしています。



明治 21 年に資母村として発足した後、昭和 31 年の 3 村合併により但東町となり、平成 17 年に豊岡市となりました。

昭和 30 年代には農林業の第 1 次産業が中心でした。昭和 40 年代に入り絹織物業を中心とした第 2 次産業が盛んとなりました。昭和 52 年にはその織物業も共同廃業され、現在では数少なくなり、第 3 次産業が増加傾向にあります。23 年前から「但東チューリップまつり」を行っており、毎年多くの来場者が訪れ、地域の活性化と交流人口の増加を促進しています。

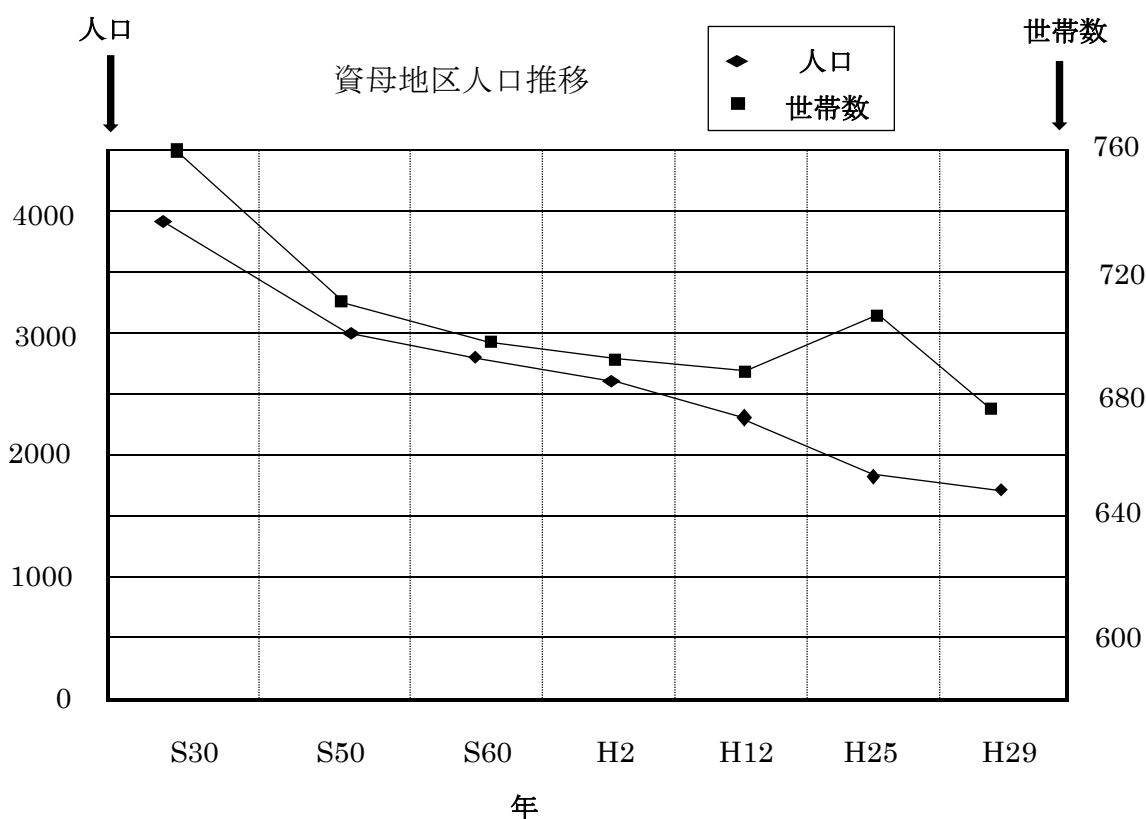
地域の現状と課題

資母地域では明治期に統計が取られ始めて以降、人口は常に減少傾向にあります。とりわけ顕著なのが、高度経済成長期の都市部への人口流出と、バブル経済崩壊後の就職困難による地域外への転出が挙げられます。また、進学した後地元に戻らず、都市部で生活する若者が増えるなど、近年の進学率の高さも人口減少に拍車をかけていると考えられます。

世帯数に関しても同様に減少傾向にありましたが、平成 12 年以降は増加に転じています。これは高齢者介護施設への単身世帯としての入居が起因していると考えられます。

このように若年者の減少と出生率の低下により、資母地域の高齢化率は他の地域と比べて非常に高くなっています。また、高齢者のみの世帯も増えており、地域の活力をどのように保っていくか、人々が安心して暮らしていくためにはどのようにすべきかが大きな課題となっています。

■ 総人口	1,710 人
■ 高齢化率	43.5%
■ 世帯数	675 世帯 (平成 29 年 1 月末)



地域活動のスタイル

地域と会の関係はどのようにあるべきか、それぞれがどのように関わっていけば地域づくりが円滑に行えるのかについても、会では検討を重ねてきました。

住民が主体的に考え、行動する事に加え、これまではそれぞれの団体が個々に行ってきた活動をつなぎ、結びつけることが重要だと考えています。

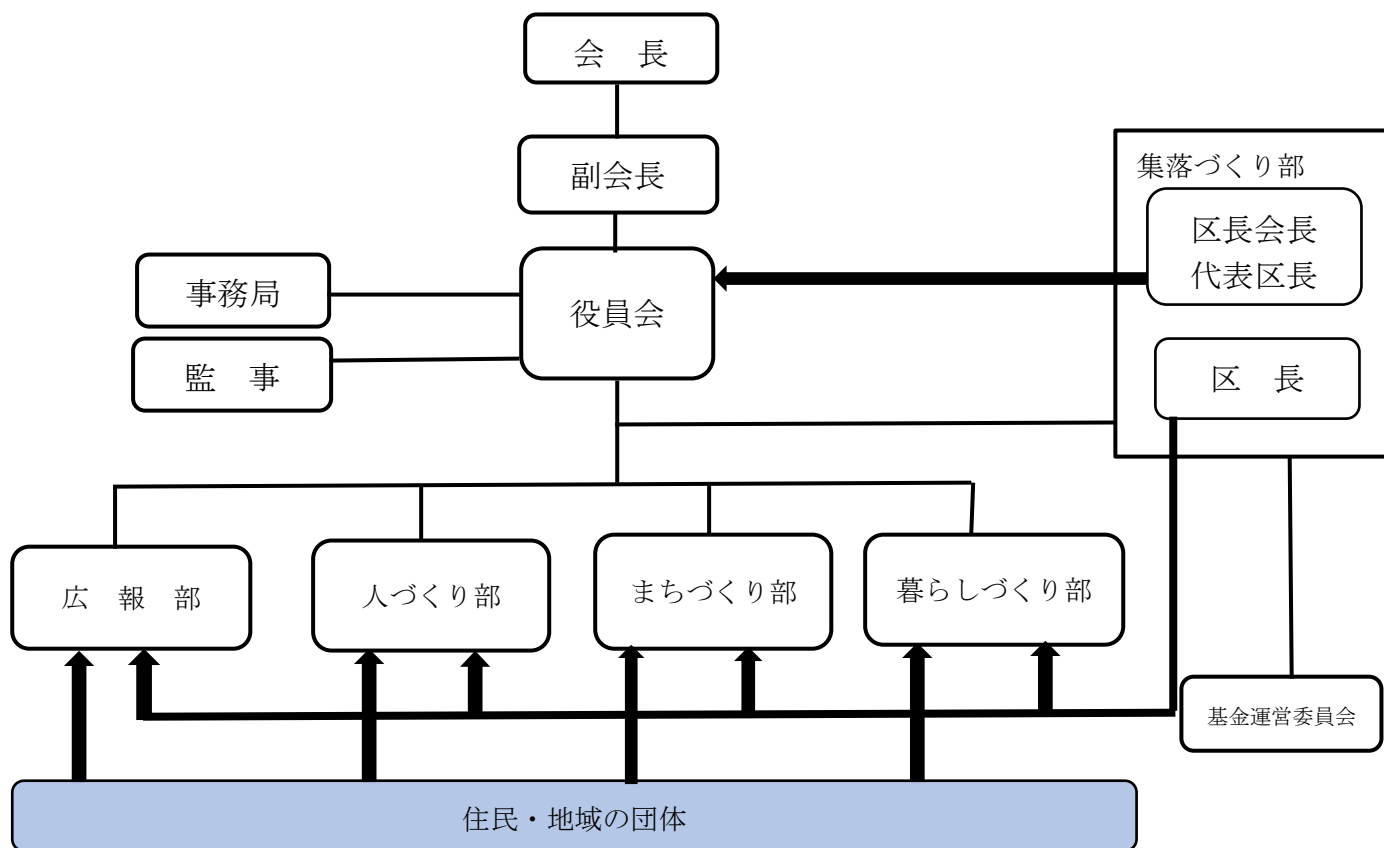
地域のひとりひとりの力が集まれば、それは大きな地域の活力となります。私たちは多くの力を結びつける事を念頭に置き、活動していきます。

組織及び構成

資母まちづくり協議会は下図のように構成されています。会長、副会長、理事、監事、事務局長、は会員の中から、総会の承認により選ばれます。会長の任期は1年で、再任を妨げないこととなっています。会員は「広報部」「人づくり部」「まちづくり部」「暮らしづくり部」に所属しその中から選ばれた部会長のもと活動を行います。

区長さんについては、各部に所属しながら、集落づくり部として活動を行います。

地域の誰もが楽しみながら積極的に参加し、地域全体で作り上げていくよう運営してまいります。



資母の夢アクションプラン

全 体

- ・多くの人々が参加し、共に考える活動・・・将来につながるために、今何をすべきか?
- ・みんなが年間2～3回参加できる事業
- ・各種団体、グループ、コミュニティセンター、博物館と連携した地域としての一体的活動



- ・地域懇談会の開催
- ・地域情報の集約と発信
- ・研修会の開催
- ・地域が一体となって行えるイベントの実施
- ・地域の各種団体と連携した全体プログラムの作成
- ・コミュニティセンター運営に向けての取り組み

広 報 部

- ・あたたかさが伝わり、共感に満ちたまち
- ・情報の発信



- ・地域情報の集約、発信
- ・広報誌の充実
- ・ホームページの開設

人づくり部

- ・郷土の文化の保存と伝承
- ・子供がすくすくと育つまち
- ・地域を担う人材育成



- ・歴史ウォーク、歴史マップ作り
- ・子育て支援
- ・若者・夢プロジェクト

まちづくり部

- ・誇りが持てる・・・地域力をつける
- ・おいしいものが楽しめる
- ・田や畑、山が生きている
- ・生き生きと働ける



- ・美しい里山の整備
- ・農産物・織物・加工品の振興
- ・農地の活用促進、放棄田の解消と美化

暮らしづくり部

- ・人が集い、つながる 人が人を思いやる
- ・誰もが居場所を持っている
- ・やさしい社会・互助を育てる
- ・困ったことを受け止め、共に考える



- ・地域サロンの普及
- ・住民生活の支援・サポート
- ・空き家対策

地域に山積する課題解決に取り組むため、私たちは「資母の夢アクションプラン」をまとめました。会はこのプランをもとに基本理念、基本姿勢、将来像、基本目標を立てました。

基本理念

伝統文化を育み、花と緑あふれる、やさしい郷・しほ

基本姿勢

この会は資母地区の情報の発信をはかり、住民みずからがともに考えて課題解決に取り組み、元気な地域づくりを実現する事を目標とします。

将来像

伝統文化を大切にし、自然豊かな地域の特性の中で誇りをもって暮らせる地域を目指すとともに、人が集い、つながり、ともに考えて進む活力のある地域を目指します。

基本目標

より良い地域づくりの思いのもと、基本姿勢と将来像を実現していくために、5つの基本目標を定めます。

1. 人々が参加し、ともに考える地域
2. 人が集い、人と人がつながる地域
3. 地域の特性を活かし、いきいきと働ける資母
4. 花に囲まれ、自然が守られ、楽しみのあふれる郷
5. 先人に学び、歴史文化を後世に伝える

平成29年度 資母まちづくり協議会事業計画

「人が集い、ともに考え、いきいきと働ける資母！」

1. 全体

- ① 地域懇談会の実施
- ② 地域情報の集約と発信
- ③ 地域内の各種団体及び事業への積極的な参加と協働
- ④ 研修及び協議の場づくり

2. 各部会

- (1) 広報部（あたたかさが伝わり、共感に満ちたまち）
 - ① インターネットを使った資母地域の情報発信
 - ② 広報誌の発行（しゃっでもシボ）
 - ③ ホームページの開設
- (2) 人づくり部（先人に学び、子どもがすくすくと育つまち）
 - ① 子育てがしやすいまち（子育て支援）
 - ② 人づくりマイスターを探せ（達人の発掘）
 - ③ 若者・夢プロジェクト
- (3) まちづくり部（楽しみあふれ、生き生きと働けるまち）
 - ① 農地の活用促進、放棄田の解消と美化（地区との連携）
 - ② 農産物生産と販売の拡大（地域づくりの会と協働）
 - ③ 農業教室の開設（PTA、学校、コミュニティセンター等）
 - ④ 観光の振興（イベントへの積極的な参加）
- (4) 暮らしづくり部（人が集い、人と人がつながるまち）
 - ① 地区と消防団との関係づくり（地域防災）
 - ② 安心して利用できるチクタクのシステムづくり
 - ③ 危険な廃墟を増やしたくない（空家対策）
 - ④ 安心と生きがいづくり（救急情報キットの設置）
- (5) 集落づくり部（隣の声が聞こえ、安心して暮らせるまち）
 - ① 隣、近所の顔が見える関係の推奨（安心な村づくり）
 - ② 集落の課題を解決（自主自立）
 - ③ 集落の文化、財産を守り、世代間のつながりを育てる（文化の伝承）
 - ⑤ 近隣集落との連携（お互い様活動）

将来の目標とテーマ

1. 人々が参加し、共に考える地域

【現状と課題】

人口の減少や高齢化、経済の停滞など、さまざまな要因により資母地域の過疎化は進行しています。生活面ではその影響が特に大きく、空き家の増加公共交通網の減少、集落行事や集会の縮小など、その影響は多岐にわたり過去に地域で行ってきた事が実施できなくなりつつあります。

誰もが安心して暮らしていける地域を保っていくための集落機能の維持は大きな課題となっています。これには地域の人間の努力が不可欠ですが現状では地域の力が分散していると言わざるを得ません。地域が一体となりこの課題解決に取り組んでいくための仕組みづくりと外部の人々を巻き込んだ活動の展開が、今、求められています。

【目標】

ひとりひとりが自ら考え、参加し、一つになって取り組めば、大きな壁である地域内の問題も解決していけると考えます。

自主的に課題解決に取り組み、また地域内の組織のパイプ役となり、人と人活動と活動をつないでいくこと、これが「資母まちづくり協議会」の役割であると考えます。

【事業計画】

1. あたたかさが伝わり、共感に満ちたまち ～広報部会～

①取り組みを始めている事業

- ・地域情報の集約と発信（しゃっでもシボ）

2. 人が集い、人と人とがつながるまち ～暮らしづくり部会～

【現状と課題】

資母地域内の各集落において、人口減少や高齢化、生活形態の変化により独居世帯が増加してきており、加えて地域での集会が減少しつつあるなど、住民間、とりわけ高齢者の地域でのつながりが希薄になってきており、こうした絆をどのように保っていくかが大きな課題となっています。また空き家の増加も大きな問題となっており、対策が求められています。

【目標】

年々増加している空き家に対し、情報を集約し有効活用を模索するとともに、出身者との交流や都市部の方への情報提供と入居者が地域に入りやすい環境の整備を進めます。また、高齢者の社会参加を促進するとともに健康を増進し、いきいきと暮らせる地域を目指します。主に社会福祉協議会で実施されているサロン活動を周知し、また、将来にわたり継続して実施していけるようサポートを行っていきます。

【事業計画】

①取組みを始めている事業

- ・空家情報の整理、マップの作成
- ・サロン活動の周知と推進

②近年中に取り組む事業

- ・I ターン定住者との懇談会の開催

③将来的に取り組む事業

- ・チクタクの利用促進…PRと路線拡大に向けた行政への呼びかけ
- ・資母地区に住むための「暮らしの便利帖（仮称）」の作成



3. 楽しみあふれ、生き生きと働ける資母
花に囲まれ、自然が守られ、楽しみのあふれる郷

～まちづくり部会～

【現状と課題】

かつて資母地域では絹織物業が盛んで、その様子は小学校の校歌にも歌われていました。しかし、現在は国内全体の産業構造の変化により、その規模は縮小し、基幹産業と呼べるものに乏しい状態です。地域の特性を活かし、誇りをもって自慢できる産品が地域には必要です。

また、近年地域内に耕作放棄地が多くみられるようになり、これらの対応も急務となっています。

【目標】

地域の自慢となる産業・産品を振興し、住民ひとりひとりが誇りをもって暮らせる地域を目指します。また地域住民が多く関わる農業を介し、都市部住民との交流を図ります。

【事業計画】

- ①取組みを始めている事業
 - ・耕作放棄地の整備と利活用
 - ・都市部住民・学生と連携した農業体験プログラムの実施
 - ・チューリップまつり会場内にて、会のPRと地元特産品の販売
- ②近年中に取り組む事業
 - ・サポーター（ボランティア登録）と協力体制の確立
- ③将来的に取り組む事業
 - ・地域の一品づくり
 - ・産業の再発見と商品化
 - ・「花回廊」の展開、「花公園」活動への参加



4. 先人に学び、歴史文化を後世に伝える ～人づくり部会～

【現状と課題】

地域に伝わる昔話や伝統行事、文化財、風習など、かつては当然のものとして地域で考えられていたものが、時代の流れとともに少しずつ失われつつあります。それらは時代や環境に合わせ、当然変化していくものですが、一方でそれは地域の個性であり私たち住民の中にある大切な部分でもあります。

先人たちの暮らしや文化を若い世代に継承していくことは、今を生きる私たちの大きな責務です。

【目標】

地域の先輩方から地域の歴史や風習を聞き、記録として後世に残すとともに、若い世代に伝えていきます。子供たちが自分たちの地域を誇りに思い、外部の人に自慢できるよう活動していきます。

また、生涯学習や健康づくりの推進、地域を担う人材育成と子育ての支援等にも取り組んでいきます。

【事業計画】

- ① 取組みを始めている事業
 - ・地域の歴史・文化の再発見…神社めぐり
 - ・子ども達にふる里を伝える講座（土曜チャレンジ）
- ② 近年中に取り組む事業
 - ・子育てしやすい地域づくり
 - ・楽しいコミュニティセンターづくり
- ③ 将来的に取り組む事業
 - ・歴史マップ、の作成
 - ・いつも、だれもが集える、学べる、センター活動



・活動のイメージ

